

第3回

☆家庭学習支援プロジェクト☆

～夏休みについてのお悩み編～



2018/07/11

コーディネーター

内田代表(まくはり♡ママの家)

穂積あゆみ(千葉市自閉症協会高機能部)

子どもにとって「**学校の勉強がわからない・ついていけない**」

「**体育が苦手だ...**」は本当に辛いことなのです。

それを少しでも解決しようと立ち上がったママたち、

そう！これが私たち「**家庭学習支援プロジェクトチーム**」の活動の

はじまりです…

今回のお悩みは???



- 良い夏休みの過ごし方
- 夏休みの宿題をどうかたづける
- 自由研究のハナシ

解決策として・・・

① いろんな経験を試してみるチャンス

今しかこの時期にしか、親子で経験できないものもあるはずです！

本物を見せる、五感を使う体験ってとても大切になってくると思います。
キャンプでの体験や宿泊体験、ソーシャルスキルを高めるためにも電車やバスに乗る体験、公共の場でのマナーを学ぶ・・・など
社会で生きるためのスキルは小さい頃から意識させるといいと思います。

② 発見！わが子の強み？

興味のあるものはものすごい集中力を発揮しますし、理解も早い・・・
(でも勉強はねえ・・・とつい愚痴ってしまいそうですが、そこはグッとこらえて)
わが子の好奇心を刺激するような、そして、得意なものを見つけ、おだてるくらい褒めてあげられたらいいですね。将来の夢にも結び付くこともあるかもしれないと。

③ 結局、1日の時間の使い方かな

小学校にも先生にもよるのでしょうか、宿題が多いと感じるご家庭とそうではないご家庭とあるようですね。やはり宿題に取り組む時間を作って計画的にすすめられるよう、親が声をかけていくしかないのかなという話になりました。楽しくできるといいのですけれども・・・

参考

「宿題のリスト」の一覧を作る

見通しをつけることが苦手な子が多いので、全部でどのくらいあるのか、一覧にすると優先順位もつけやすく取りかかりやすくなると思います。

- ①付箋を使って細かく課題を書きだします。(例:算数ドリル●●ページまで)
☆工作だったら、「作るものを決める」→「材料をそろえる」→「作る」と3枚にスモールステップに書いてもよい。
- ②「今日はどれからやるの?」と声をかけ、課題ができたら付箋を外していく。
ポイント制にして何かと交換するシステムにしても楽しく取り組めるかもしれません。

※宿題に使うプリントや原稿用紙などは兄弟別にファイルケースに入れる、終わったら大きな封筒やケースに入れておけば失くしたり、提出日に忘れることもない、しかも達成感もあるかと思います。

参考図書「発達障害&グレーゾーンの3兄妹を育てる母の毎日ラクラク笑顔になる108の子育て法」(大場美鈴著 ポプラ社)

最後に・・・ 自由研究のハナシ

低学年だと工作が多いよね・・・という話になり、理科の実験にするのか、社会見学にし、それをまとめるのか、など・・・

学年が大きくなると、テーマ決めも大変であったり親が思いつかないとなかなか苦勞するわ～ということで、やはりそれは誰かに助けを求めましょうということで、やはり子ども向きの講座やイベントは夏休みなので、あっちこっちで行われていますね。

市政だよりやミニコミ誌や科学館などの情報は仕入れて積極的に取り入れたいものです。

ちなみに母たちは子どもの頃、どんな研究をしたか、なんて話にもなりましたが、「自由研究の宿題自体なかった」という方も多くいらして、やったことがないから子に提案するにも想像がつかないとの話でした・・・

